

Summer Program

国際センター主催 短期海外研修プログラム

慶應義塾大学国際センターは休校期間中に参加できる短期海外研修プログラムを開催しています。英語による講義やディスカッション等、多彩な活動を通して現地の名門校で学ぶことができます。さまざまな異文化交流を体験することで、国際性豊かな学生を育成することを目的としています。質の高い充実した内容が盛り込まれており、海外生活体験をしたい方、外国語によるコミュニケーション能力向上を期待する方、将来長期の留学を考えている方などにとって、

ふさわしい講座といえるでしょう。

詳細は国際センターWebをご覧ください。

https://www.ic.keio.ac.jp/keio_student/short_prog/summer_prog_index.html



ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

研修日程：8月4日（月）～8月18日（月）（8月19日（火）帰国） 約2週間

- ✓ アメリカ東部の歴史ある名門校で日米比較とアメリカ文化について幅広く学ぶ
- ✓ グループワークや様々なアクティビティを通して現地の学生と数多く交流できる
- ✓ アメリカの首都・ワシントンD.C.へのフィールドトリップを経験できる



「将来グローバルなキャリアや交換留学を考えている人は勿論、そもそもやりたい事が漠然としていないこそ、是非！一生忘れられない夏休みになります。」

「全米でも屈指の名門校で歴史のある素晴らしい学校です。アメリカ留学はどのようなものかを少しでも肌で感じたい方は、このプログラムに是非応募してください！」

「ウィリアム・アンド・メアリー大学の皆さんは、本当に優しくて明るくて、一緒に時を過ごすことが幸せでした。現地の皆さんのおかげで自分の英語のコミュニケーション能力を上達させることが出来ました。英語でのコミュニケーション能力を向上させたい方、アメリカでの生活を体験してみたい方は、ぜひ参加してみてください！」-過去参加学生の声より抜粋



ケンブリッジ大学ダウニング・コレッジ夏季講座

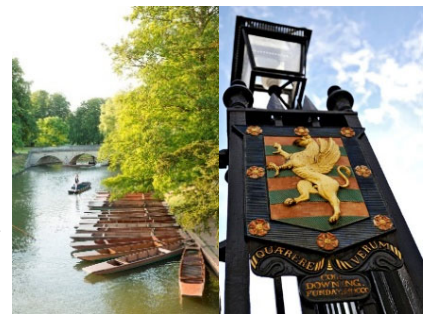
研修日程：8月9日（土）～9月6日（土）（9月7日（日）帰国）約4週間

- ✓ 世界的名門校ケンブリッジ大学での短期留学
- ✓ 英語と希望の専門分野をバランス良く学ぶ
- ✓ イギリスの伝統や文化を体感できる

「ケンブリッジ大学で勉強するという、この先の人生で二度とできないであろう経験」

「食事付きなので、一人暮らしの経験がなくても安心して参加でき、寮生活によりケンブリッジ大生と同じような暮らしを体験できる。ディベートやプレゼンテーションを通してアカデミックな内容の英語を話す機会が多い。」

「海外に住み・そこで勉強をする、という経験は何にも変え難いし、自分に新たな選択肢を与えてくれると思う。将来的に長期留学をしたい、または海外で何らかの活動をしたい（海外勤務や海外移住等）と考えている人におすすめ。」-過去参加学生の声より抜粋



応募期間：4月4日（金）午前10時～4月22日（火）午前10時



- ・ 学内で選考を行い合格者のみが参加できるプログラムです。
- ・ 本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。
- ・ 奨学金支給対象プログラムです。※必ず受給ができるものとは限りません。



学生部国際交流支援グループ短期海外研修プログラム担当 Mail: ic-zaigai@adst.keio.ac.jp



短期海外研修プログラム夏季講座

詳細

https://www.ic.keio.ac.jp/keio_student/short_prog/summer_prog_index.html

	ウィリアム・アンド・メアリー大学	ケンブリッジ大学ダウニング・コレッジ
所在地	米国 ウィリアム・アンド・メアリー大学近隣のホテル泊	英国 ケンブリッジ大学ダウニング・コレッジ内の学生寮泊
研修日程	2025年8月4日(月) - 8月18日(月) (日本出発: 8月4日(月) 午前, 日本到着: 8月19日(火) 午後) ※本学指定フライトへの搭乗が必須です。	2025年8月9日(土) - 9月7日(日) (日本出発: 8月9日(土) 午前, 日本到着: 9月7日(日) 午後) ※本学指定フライトへの搭乗が必須です。
参加費用概算	1) 研修費用: 約80万円 2) 海外旅行保険および危機管理サポート費用(大学指定): 約1~2万円程度 3) 渡航費: 約40万円 ※費用は為替・燃油サーチャージの変動によって変わるため、確定額は合格者に後日お知らせします。	1) 研修費用: 約120万円 2) 海外旅行保険および危機管理サポート費用(大学指定): 約1~2万円程度 3) 渡航費: 約60万円 ※費用は為替・燃油サーチャージの変動によって変わるため、確定額は合格者に後日お知らせします。
概要	教育・研究で高い評価を得ている州立大学です。米国ではハーバード大学に次いで古い歴史を誇っており、独立宣言の草案を書き、後に米国の大統領となったトマス・ジェファソンら3名の大統領を輩出しました。グループワークのほか、米国の歴史・政治・文化に関する講義、その内容について意見交換するディスカッション、講義に沿ったフィールドワークやショートエッセイライティング、そして首都ワシントンD.C.へのフィールドトリップなどを通して、米国文化について幅広く学ぶことができます。グループワークでは、塾生とウィリアム・アンド・メアリー大生で小グループに分かれ、各グループで決めたトピックについて日米比較を行い、最後にプレゼンテーションを行います。また、グループワークに加わるウィリアム・アンド・メアリー大生のほか、大学院生がディレクターやインストラクターを務めるなど、同世代の米国人大学生・大学院生とも深く交流できる点が大きな特徴です。	世界有数の名門校であるケンブリッジ大学のダウニング・コレッジと慶應義塾大学は、長きに亘り交流を深めています。英語研修、専門科目の講義、SDGsに関するワークショップで学びます。英語集中研修では、アイスブレイクとしてのドラマワークショップ、講義・ディスカッション形式の授業や、プレゼンテーションの方法やノートの取り方を実践形式で学べる授業を受けます。専門科目の講義では、International Relations, International Management, Healthcare and Biotechnology, Contemporary Art, History of Artの5つのStrandから1つを選び、参加学生は知識の幅をより広げることができます。ケンブリッジ大学の学生がTeaching Assistantとして同じ寮に宿泊しながら講座をサポートします。ダウニング・コレッジ内での寮生活やケンブリッジ大生が企画する様々な活動に積極的に参加することで、幅広い異文化交流を体験することができます。
	The Keio University/College of William and Mary Cross-Cultural Collaboration (CCC) is a unique opportunity for both American and Japanese students to explore the construction, transformation, and expression of cultural and national identity through a variety of intellectual exercises. The main objective of the 2025 program will be to explore the cultures we encounter in our everyday experiences, our histories, and our relationships. Thinking deeply about the sites where cultures come together and diverge provides a starting point from which to investigate specific traditions, diverse groups, and cultural texts. We can view cultural forms such as film, television, music, literature, art, business and advertising as important mapping tools that societies use to understand themselves and the world around them. Through lectures, field trips, discussions, and research, students will explore the different nationalities, cultures, and ethnic groups that compose American and Japanese national cultures. By examining topics such as race, ethnicity, nationality, class, gender, historical interpretation, education, religion, and geography, students can begin to analyze how different groups and peoples interact and influence one another while constructing a large society and culture. Students may choose from a variety of research topics that focus on one or two cultural forms they find interesting. This will allow the students to apply what they have learned throughout the program to their research while conducting a close reading of their selected cultural texts. After selecting a topic, students will begin research in the spirit of cross-cultural collaboration, with help from the CCC staff. Through a combination of research and analysis of a variety of Japanese and American cultural texts, students will compare how Japan, America, and their respective national cultures influence the lives of their citizens, and how citizens influence the cultures of each nation.	MESSAGE FROM SUMMER PROGRAMME COORDINATOR The programme has been designed to broaden your perspective against the backdrop of global challenges, modern culture, and philosophy. Interdisciplinary learning is at the summer school's core. We are offering more course strands for you to choose from and organising an extensive number of extracurricular activities to get involved with. My aim for the Summer Programme is for you to engage with subjects that interest you (but have not necessarily been studying them at university); learn from experts in the field (Cambridge academics or industry professionals); discuss and debate ideas with other curious individuals participating on the programme; and immerse yourself in the 'Cambridge experience' (living in college, attending formal hall, punting along the River Cam) ... or to put simply, 'learn like a legend, live like a local'. I hope you can join us and broaden your perspectives at Downing College for an exciting and unforgettable summer. Downing College is a unique academic community: diverse, close-knit and committed. The College's purpose is to provide a world-class education to the students with the most potential in each subject, whatever their means or social background.
英語能力基準	TOEFL iBT45, TOEFL PBT/ITP 450, IELTS (アカデミックモジュール) 5.0, TOEIC (IP含まない) 450, 英検2級, G-TELP (Level 2) 190% ※上記の基準点の内、1つでも満たしていれば講座に応募できます。	
応募	受付締切: 2025年4月22日(火) 午前10時	
単位取得	4単位(2025年度秋学期科目) 本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。履修単位の取り扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認してください。なお、本講座の成績評価は、P(合格)/F(不合格)となります。 ※2025年度秋学期設置科目として認定されるため、2025年9月卒業の場合は単位取得はできません。ご注意ください。	
奨学金	「慶應義塾創立150年記念奨学金海外学習支援」「慶應義塾維持会国際交流奨学金」の支給対象講座です。プログラム合格者に対し、別途メールにてご案内します。なお、採用人数には限りがあり、必ず受給ができるものとは限りません。その点予めご了承ください。短期海外研修プログラムへの応募にあたっては、保証人ともよくご相談の上でご検討ください。	